

## ⑧秋空の下の交流戦（11/22 大和 RS 主催）

2020年11月22日

「天高く、馬肥ゆる秋」とはよく言ったもので、秋の空はどこまでも澄み渡った青空がまぶしいほど、今日の空は青かった。

連日の報道で一気に大台を超える感染者数のニュースで、今週末の大和ラグビースクール（以下、大和 RS）さん主催の交流戦の開催が危ぶまれたが、無事開催に至りホッとして会場入りした。

会場入りしてびっくりしたのが、感染拡大のニュースをよそに、ミルクィー（幼稚園から1年生、2年生）のみんなが一生懸命練習や試合に勤しんでいる風景が目飛び込んできた。ここはまるで別世界の様子で、本当に長閑な風景を見て、感染拡大ニュースにビクビクしていた自分が恥ずかしくなってしまうほどだった。

それにしても子どもたちが必死の形相でゴールに向かう姿が久しぶりの光景で思わずスマホのカメラでパチリ。勝ったチーム、負けたチームはそれぞれ悲喜こもごもであった2年生に対して、「あれあれどこに行くの」と思ってしまう幼稚園生。年長、年中関係なくマイペースで走り廻る子どもたちの様子が本当に愛くるしかった。

ミルクィーは「タグ・ラグビー」。このタグ・ラグビーでの試合は、タックルの代わりに左右の腰に付けた2つのタグ（マジックテープで短冊のようにぶら下がったもの）を取ったら、タックル成立と見なし、ボールを保持するプレイヤーは直ちにそこで止まってボールを味方に渡し、ゴールを目指す。4回のうちにゴールに到達すればトライ、得点となる。4回でゴールに届かなければそこで攻守交替となる。

多くのチームは、一人走りに卓越した子がいるとその子がボールを持って、グラウンドを縦横無尽に駆け回り、ゴールにボールを運ぶ一方的な試合となることもある。しかしながら、拮抗した力の両チームだとこれはこれでいい試合になっていた。

お昼からは3、4年生、5、6年生とグラウンドも大きなフィールドに設営され、ダイナミックなプレーが繰り広げられた。グラウンドの左右にはH型のポールが設置されて、試合も県大会と同様にトライ後にゴールを狙うことが久しぶりに行われた。子どもたちもキックの練習をしてちょっと嬉しそうだった。キックのある試合がちょっと違った雰囲気を感じ出していた。

今回は大和 RS さん主催で、グリーン RS、さがみみなみ RS、麻生 RS の4スクールの参加とコロナ対策の下、入れ替わり立ち替わりで実に多くの参加人数ではなかっただろうか。今年の3月からほぼ半年間スクール活動が開催できなかった。でもようやくこうした試合が開催できるレベルにまで戻ってきたことをまずは嬉しいニュースとして記しておきたい。

観客席も利用でき、保護者はグラウンドに降りるはできなかったものの、歓声や拍手が聞こえる去年までの光景が久しぶりに見られた長閑な一日であった。感染拡大のニュースをすっかり忘れてしまいそうなひと時であった。大和 RS の小西校長も、参加したみんなが楽しそうに試合をしている姿を、大変ご満悦な様子で微笑みを浮かべてご覧になっていた姿が印象的だった。次週は麻生 RS が主催でみなさんをお招きする番だ。しっかり準備をせねば。